

コラムを読み解く(中学・国語)

()中学校()年()組 氏名()

* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

近著(きん・ちよ) = 最近の著作。

乱発(らん・ぱつ) = むやみに発行すること。みやみに発射すること。

軽薄(けい・はく) = 考えが浅く、言葉づかいや動作がいい加減(か・げん)な様子。

カジュアル = 日常的・実用的で気軽な様子。

推察(すい・さつ) = 気持ちなどを推し量ること。 絆(きずな)

連帯感(れん・たい・かん) = みんながしっかり結びついた仲間だという気持ち。

象徴(しょう・ちょう) = 考え、気持ちなど目に見えない物を色や形などにたとえて表すことやもの。シンボル。

手あかにまみれる = 物についた手あかやよごれ。物事が使い古されて新鮮味(しんせんみ)がなくなり、陳腐化(ちんぷ・か)している状態。万能(ばん・のう) = 何にでも効き目があること。何でもできること。

堅苦(かた・くる)しい = きょうくつで、ゆとりがない。

南風録

やばい、超、めっちゃ。この三つの言葉は絶対使っちゃいけないよー。フィンランドから日本の高校に留学してきたラウラさんは、日本語の先生からそんな指導を受けたそうだ▼使わない高校生活は不便だったろう。北村浩子さんの近著「日本語教師、外国人に日本語を学ぶ」にあるエピソードだ。いずれも若者が乱発する、ちよつと軽薄な感じの言葉だが、ふと気づくと自分も口にしていたりする▼ラウラさんは禁止の理由を「カジュアルすぎるし万能だから」と推察する。本気で日本語を覚えたいなら、その場にもっとびつたりの別の語がないか探してもいい。先生の意図をそう理解している▼文章を練る作業にも通じると思う。例えば「絆」。2011年の東日本大震災以降、新聞を含むメディアにあふれた。被災者との連帯感を象徴する優しさや善意のこもる文字が、響きが、乱用されて手あかにまみれていく気がして残念だった▼意味が広くて万能だからこそ、あるいは美しいからこそ、その言葉に頼りそうになったら、もうひとひねりしてみる。心の隅に置いても損はない心がけだろう▼ラウラさんにはおはこのジョークがあるという。「私、『やばい』は使っちゃいけないんだよね」と伝え、その後ほつりと「めっちゃやばい」。なかなかのセンスだ。堅苦しく考えすぎず、豊かな言語表現を目指す気持ちに共感する。

2025年6月16日付1面

【問1】「やばい、超、めっちゃ」はどのような言葉だと筆者は捉えていますか。

【問2】留学生のラウラさんが、日本語の先生から「やばい、超、めっちゃ」の使用を禁止された理由と先生の意図を書きましょう。

理由・・・

意図・・・

【問3】ラウラさんのエピソードは何にあったものですか。

【問4】筆者は、文章を練る際に、どのような心がけがあったら良いと考えていますか。

【問5】「豊かな言語表現を目指す」とありますが、あなたは言葉の使い方についてどのように考えていますか、書きましょう。

